

2023年度第2四半期 決算説明会資料

- ※ 本資料に記載されている業績予想、並びに将来予測は、当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠していますが、その正確性、或いは完全性について、当社は何ら表明、及び保証するものではなく、実際の業績は、様々な要因の変化により、記載されている業績予想、並びに将来予測とは異なる可能性があることをご承知おきください。
- ※ 本資料は百万円未満を切り捨てて表示してあります。

 中越パルプ工業株式会社

目次



I. 2023年度第2四半期 連結決算概要

1. 連結業績概要	1
2. セグメント別損益	2
3. 連結営業利益増減内訳	3
4. 連結有形固定資産増減明細	4
5. 連結キャッシュ・フロー計算書	5

II. 2023年度 連結業績予想

1. 連結業績予想	6
2. 連結営業利益増減内訳(計画)	7

III. 中期経営計画2025 取組み状況

1. 概要	8
2. スケジュール進捗①②	9,10
3. 事業ポートフォリオ(売上高構成)	11
4. nanoforest実用化、高機能CNF研究開発の加速	12,13
5. 中越エコプロダクツ事業	14

IV. 参考資料

1. 連結業績推移	15
2. 連結自己資本利益率(ROE)推移	16
3. 連結有利子負債残高推移	17
4. 連結設備投資・減価償却費推移	18
5. 原燃料価格推移(対2014年度比較)	19

連結業績概要



主な変動要因	(単位：百万円)	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	増減
紙：[売価] 〈国内〉価格改定実施 〈輸出〉円安による売価上昇 [数量] 〈国内〉デジタル化進行等による グラフィック用紙の需要減退 〈輸出〉市況悪化により減	売上高	49,289	52,493	+3,204
パルプ：生産体制増強効果	営業利益	1,502	3,304	+1,802
	経常利益	2,542	3,794	+1,252
	親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,779	2,569	+790
◇価格改定、コスト低減、パルプ数量増	中間配当金 (円/株)	20.00	30.00	+10.00
◆原燃料・薬品価格の高止まり、 円安、数量減(減販・減産)	自己資本利益率(ROE) (%)	3.5	4.8	+1.3
増配(当初予想+5円/株)	減価償却費	2,920	2,905	▲15
	為替レートの (円/US\$)	129.98	138.91	8.93円安
	ドバイ原油 (US\$/bbl)	109	81	28安
	連結子会社数 (社)	8	7	▲1
	持分法適用会社数 (社)	6	6	±0

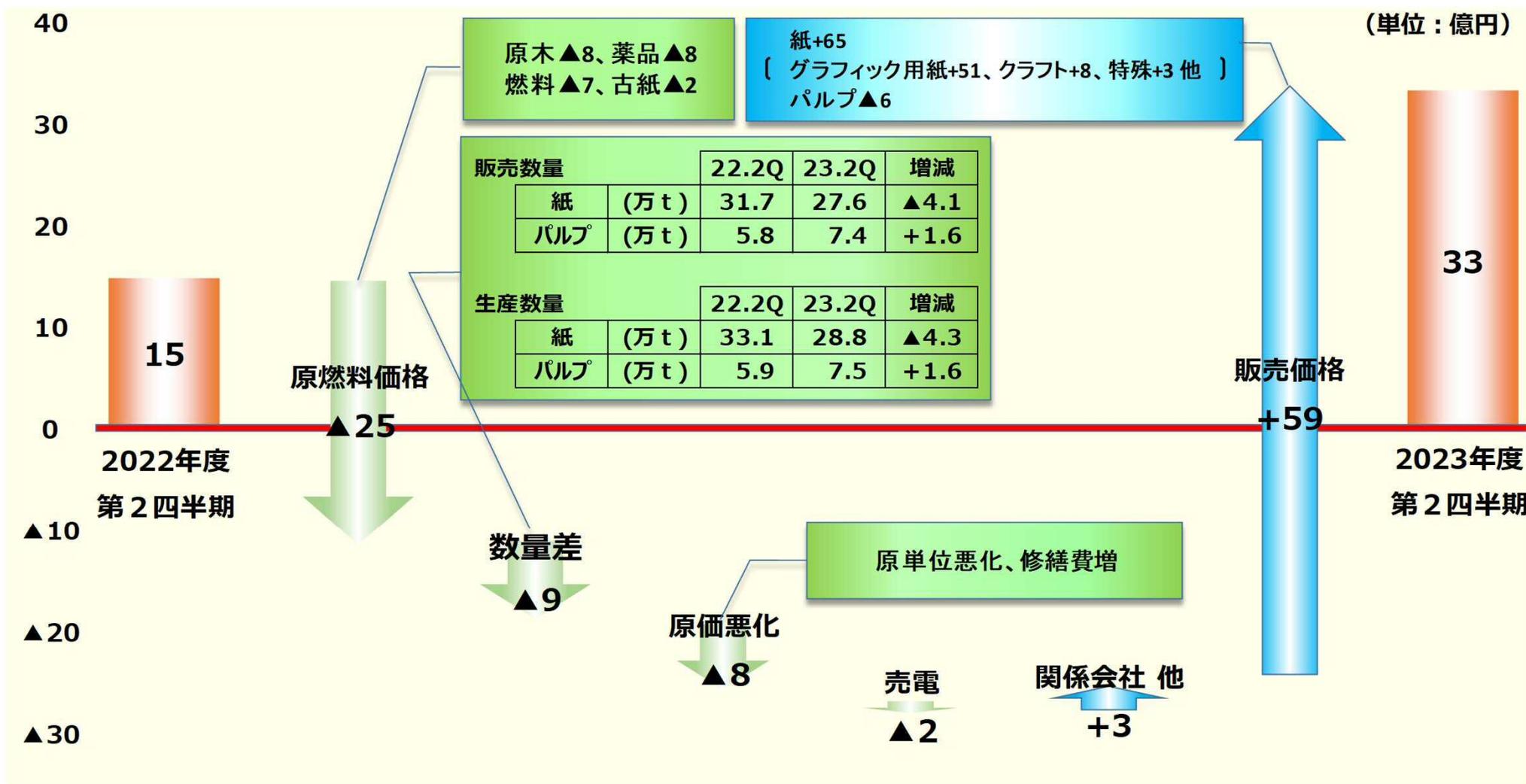
セグメント別損益



(単位：百万円)

		2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	増減
紙・パルプ 製造事業	売上高	43,354	46,833	+3,479
	セグメント損益	957	2,891	+1,934
発電事業	売上高	3,774	3,735	▲39
	セグメント損益	503	309	▲194
その他	売上高	8,381	8,370	▲11
	セグメント損益	▲38	110	+148
調整額	売上高	▲6,220	▲6,445	▲225
	セグメント損益	80	▲6	▲86
合計	売上高	49,289	52,493	+3,204
	セグメント損益	1,502	3,304	+1,802

連結営業利益増減内訳



連結有形固定資産増減明細



(単位：百万円)	2023年3月末	増 加	減価償却	除却等	2023年9月末	増 減
中 越 パ ル プ	47,209	4,762	▲2,722	▲31	49,218	+2,009
連 結 子 会 社	6,548	156	▲123	▲250	6,331	▲217
連 結 調 整	▲1,677	398	8	-	▲1,271	+406
合 計	52,080	5,316	▲2,837	▲281	54,278	+2,198

主なる増加の内訳

・川内工場 6RB 4次低温過熱器管更新 14億円

・高岡工場 家庭紙マシン新設 13億円

・東京本社再開発 3億円

・川内工場 6RB 1次低温節炭器管更新 2億円

設備投資額の推移



連結キャッシュ・フロー計算書



(単位：百万円)	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,384	5,913	+4,529
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲2,641	▲4,231	▲1,590
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲2,259	▲1,507	+752
現金及び現金同等物残高	11,845	8,470	▲3,375

営業活動によるキャッシュ・フロー内訳（億円）

税金等調整前当四半期純利益 34、減価償却費 29、他

投資活動によるキャッシュ・フロー内訳（億円）

有形固定資産の取得▲41 他

財務活動によるキャッシュ・フロー内訳（億円）

長期借入金の減少▲14 他

連結業績予想

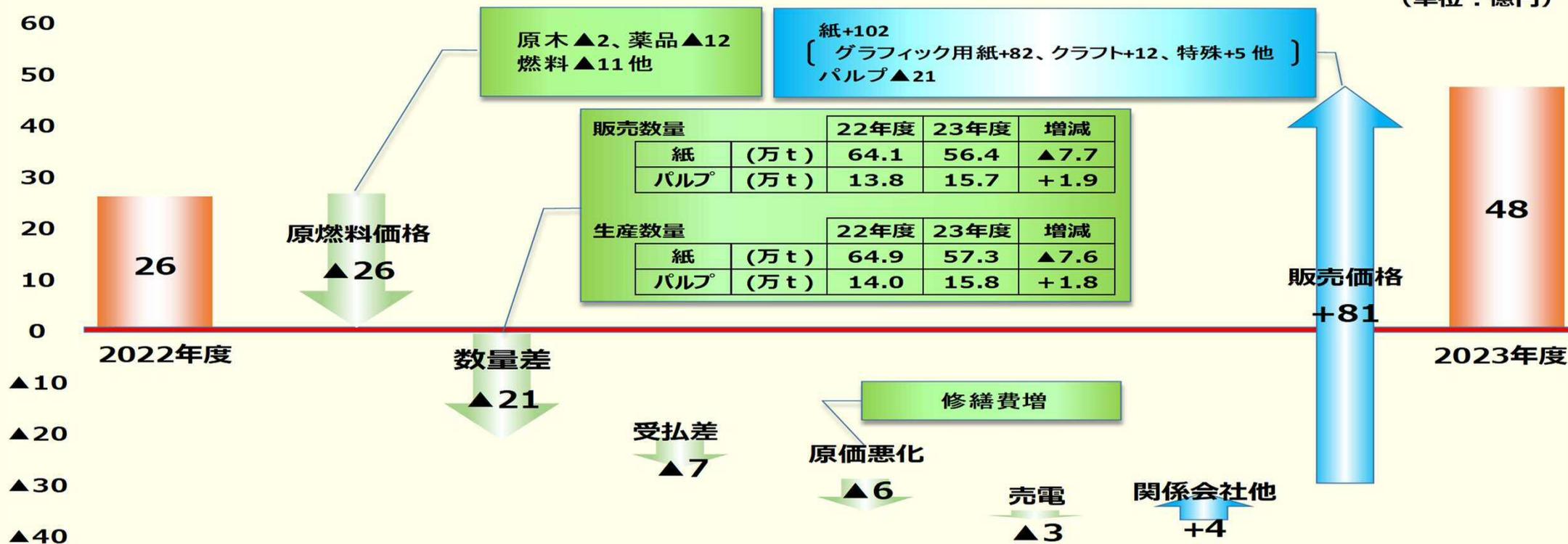


主な変動要因	(単位：百万円)	2022年度	2023年度	増 減
紙：[売価] 〈国内〉価格改定実施 [数量] 〈国内〉デジタル化進行等による グラフィック用紙の需要減退 〈輸出〉市況悪化により減 パルプ：生産体制増強効果	売 上 高	105,668	106,000	+332
	営 業 利 益	2,594	4,800	+2,206
	経 常 利 益	3,397	5,500	+2,103
	親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,050	3,600	+550
◇価格改定、コスト低減、パルプ数量増	年 間 配 当 金 (円 / 株)	50.00	60.00	+10.00
◆原燃料・薬品価格の高止まり、 円安、数量減(減販・減産)	自己資本利益率(ROE) (%)	6.1	6.8	+0.7
増配(当初予想+10円/株)	減 価 償 却 費	5,823	5,800	▲23
対US\$1円円安につき▲110百万円/年	為 替 レ ー ト (円 / US\$)	135.34	144.70	9.36円安
1US\$/bbl高につき▲65百万円/年	ド バ イ 原 油 (US\$/bbl)	97	89	8安
	連 結 子 会 社 数 (社)	8	7	▲1
	持 分 法 適 用 会 社 数 (社)	6	6	±0

連結営業利益増減内訳(計画)



(単位：億円)



【2023年度下期連結営業利益予想】

- ・前提条件 為替：150円/US\$、トバイ原油：95US\$/bbl、原木・古紙価格：直近の実勢価格
- ・営業利益 15億円（年間48億円 - 上期33億円）
円安進行、市況の悪化等の影響により対上期減益を見込む

中期経営計画2025 取組み状況：概要



中期経営計画2025

- ①既存事業の構造転換（紙に占めるグラフィック用紙の比率減 75→60%）
 - (1)紙パルプ事業の生産体制再構築
 - (2)グループ関係会社事業の選択と集中による収益力強化
- ②森林資源を活用した環境投資・環境ビジネス推進

ビジョン2030

既存事業の発展・環境ビジネスの発展・イノベーションにより、森林資源の有効活用を通じた循環型社会の構築と持続可能な未来を実現する

<収益目標>

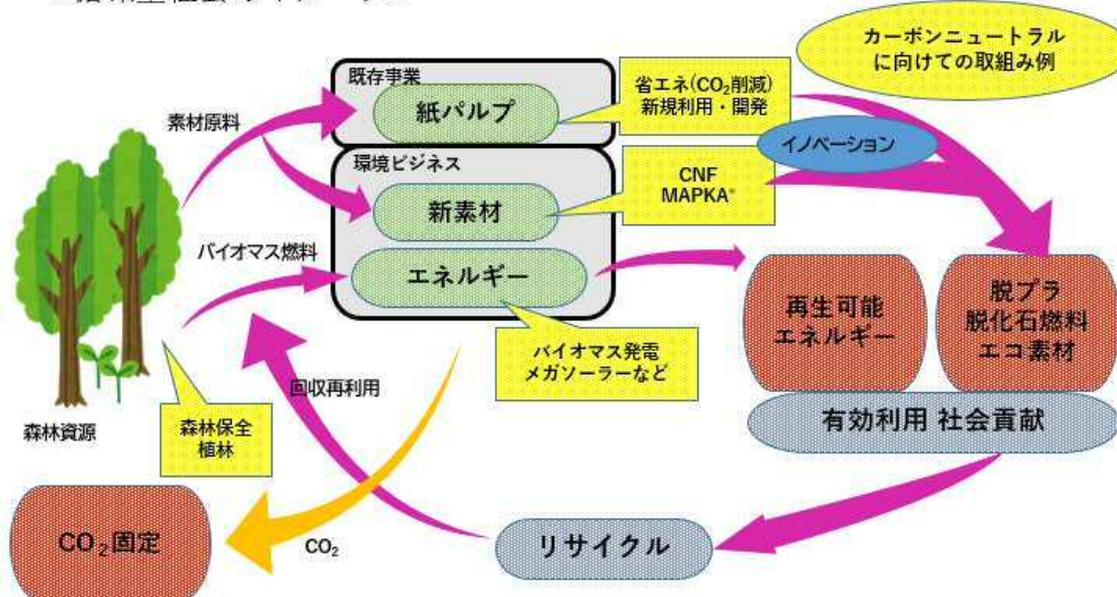
	中期経営計画 目標	2022年度 (実績)	2021年度 (実績)
営業利益	40億円	26億円	24億円
ROE	5%以上	6.1%	2.6%

<2030年度 環境目標>

カーボンニュートラル社会の実現に向けて、製造工程における化石燃料由来のCO₂排出量を2030年度までに2013年度比50%削減する。

	2013年度	2022年度	削減率 (2013年度比)
千t-CO ₂ /年	411	282	▲31%

<循環型社会のイメージ>



中期経営計画2025 取組み状況：スケジュール進捗①



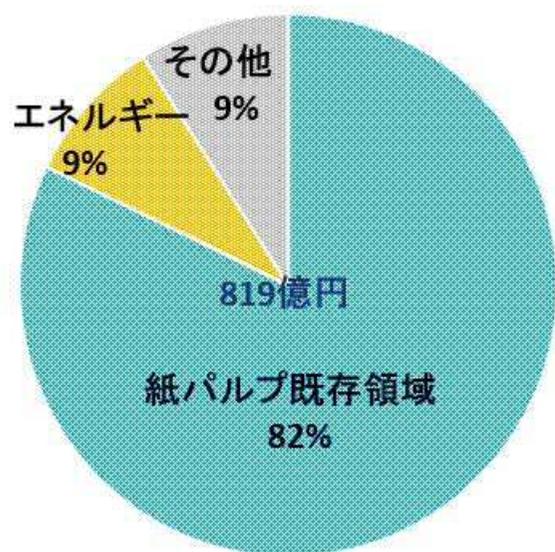
《①既存事業の構造転換 進捗》

		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
① 既存事業の構造転換	(1)-Ⅰ 6号マシン停機	生産集約完了 ●2022年9月末 高岡工場6号マシン停機完了				
	(1)-Ⅱ 家庭紙マシン新設	設置 稼働（2023年12月予定）				
	(1)-Ⅲ 事業領域拡大	パルプ増販（生産体制強化完了）				
		脱プラ需要など紙の新規利用の拡大 ●2023年度外販パルプ販売見込み：2020年度比99%増				
	(2) 関係会社収益力強化	三善製紙営業権譲受完了・文運堂文具事業譲渡完了				

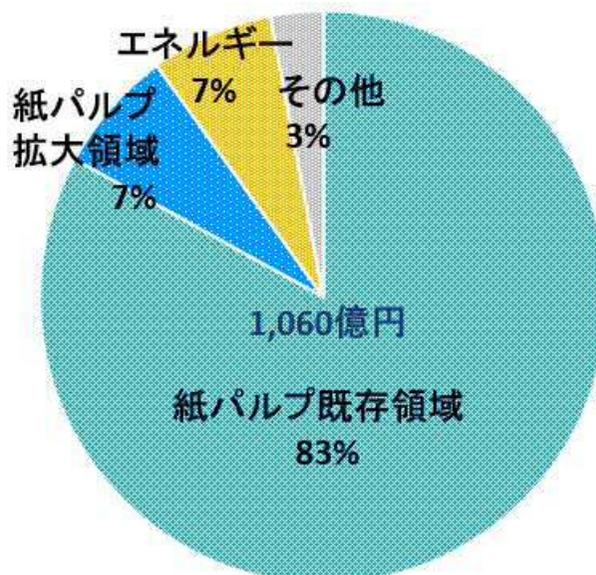
●家庭紙マシンは当初計画通り2023年12月の稼働に向けて工事も大詰めとなっています。

●高岡工場での外販パルプの生産体制強化により、2023年度は2020年度比99%の販売増となる見込みです。

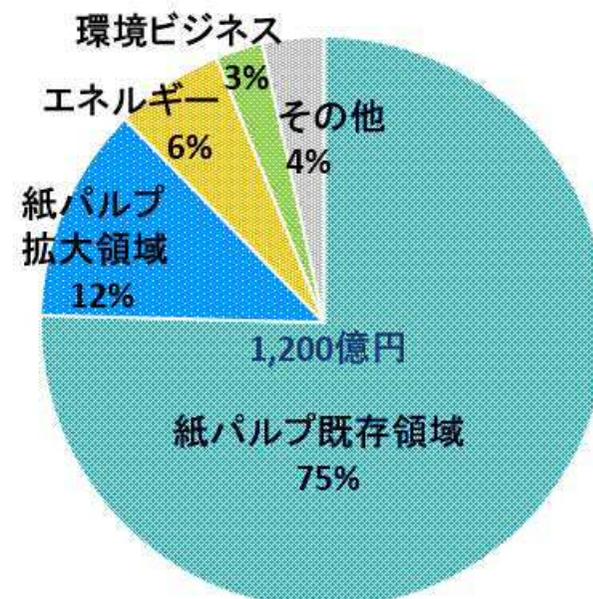
中期経営計画2025 取組み状況：事業ポートフォリオ(売上高構成)



2020年度実績



2023年度見込み



2025年度見通し

- 2023年度は生産集約や外販パルプの増産、12月からの新規家庭紙マシン稼働などにより、7%の紙パルプ事業領域拡大(2020年度比)となる見込みです。
- エネルギー事業は総売上高の拡大等の影響により、2%減(2020年度比)となる見込みです。
- 環境ビジネスは中越エコプロダクツ事業の営業運転開始などにより、2024年度以降増加する見通しです。

中期経営計画2025 取組状況



nanoforest実用化、高機能CNF研究開発の加速（②-I）

新規分野への nanoforest 展開

・農業分野への nanoforest 利用

- ・2023年9月、CNFを用いた植物向けの新たな物理的防除資材“**nanoforest-S【アグリ】**”の普及に関する取り組みが、農林水産省『**みどりの食料システム戦略に基づく基盤確立事業実施計画**』へ認定されました。
- ・本資材は、国が推進している『総合防除（化学農薬だけに頼らない病害虫の発生予防）』に対応した**農業資材**で、CNF由来の微細繊維が植物葉面を覆うことで病原菌の侵入を物理的に防ぎます。様々な野菜・果実の栽培に利用でき、水で希釈後、普段ご使用の散布機などで散布して使用します。
- ・県の農業試験場や大手農業法人、農家などでのトライアル使用を進めています。



防除イメージ

・化粧品分野への nanoforest 利用

- ・2023年5月、化粧品原料向けに“**nanoforest【MicC】**”の販売を開始しました。
- ・化粧品原料として既に一部の客先でご利用頂いておりますが、今回一般販売を開始しました。原料に国産竹100%の天然繊維を使用し、用途に合わせた形態で提供致します。
- ・いくつかのメーカー様で、採用に向けた試験・検討に取り組んで頂いています。

中期経営計画2025 取組状況



nanoforest実用化、高機能CNF研究開発の加速（②-I）

高機能CNFパイロットプラント建設

従来から販売している

・nanoforest-S(水分散)	低解繊CNFのスラリー品(水分散品)
・nanoforest-PDP(粉体)	樹脂やゴムへの分散性を改善させたCNF乾燥粉体
・nanoforest-MB(ペレット)	CNFを樹脂やゴムなどに20～30%分散させたもの

に加えて、以下の3種類を製造するための「高機能CNFパイロットプラント」を建設します。

- ①nanoforest-S(高解繊CNF)
従来品よりも解繊を進め、高機能製品への適応性を向上させたCNF
主な用途:化粧品、農業利用
- ②nanoforest-M(疎水化CNF)
有機溶剤やオイルなどへの分散性を向上させたCNF
主な用途:化粧品、工業利用
(オイルの増粘効果があり、化粧品用途では触感が改善)
- ③nanoforest-CMB(CNF成形体)
nanoforest-Sを脱水乾燥させた軽量高強度な固形状の成形体



2022年春から設備検証テストを進めており、各製品の販売、及びサンプル販売を行っています。販売先からのフィードバックをパイロットプラント設計に反映させて行くと共に、製造方法の効率化に向けた検討を進めています。



中期経営計画2025 取組状況

中越エコプロダクツ事業（②-Ⅱ）

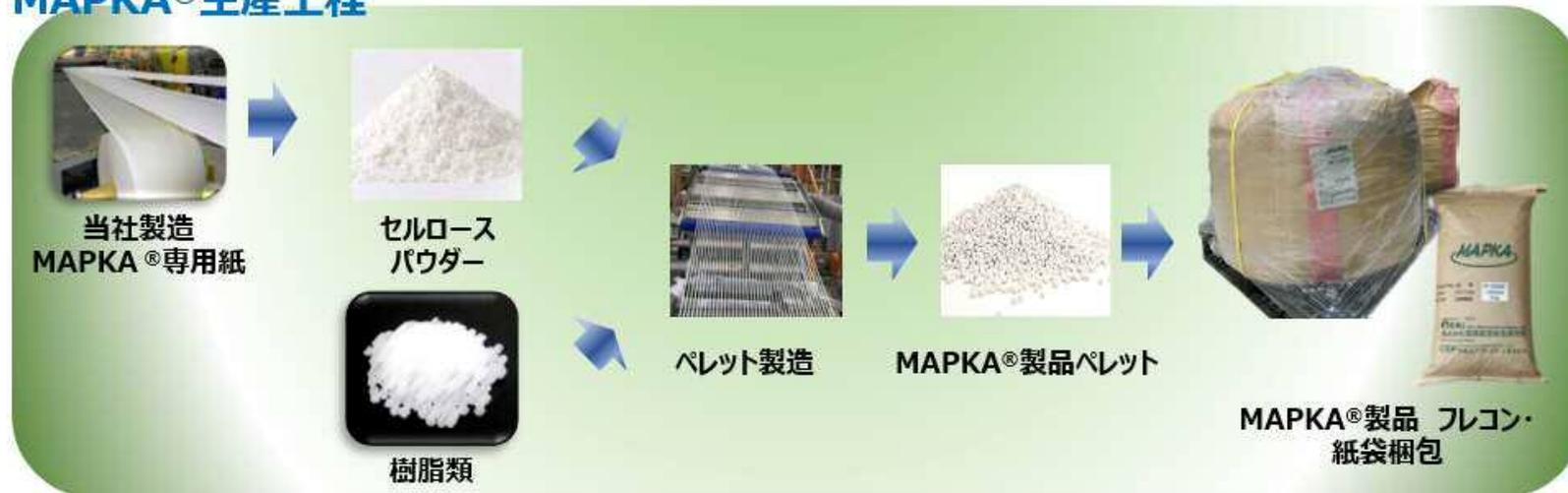
テスト品生産～MAPKA®サンプルペレット提供開始

- ① 本年5月より、**サンプルペレットの提供を開始**
- ② お客様の実機において**本生産へ向けた試作を開始**
- ③ 従来のシートグレードに加え、**射出グレードにも対応**



当社高岡工場と中越エコプロダクツ(株)

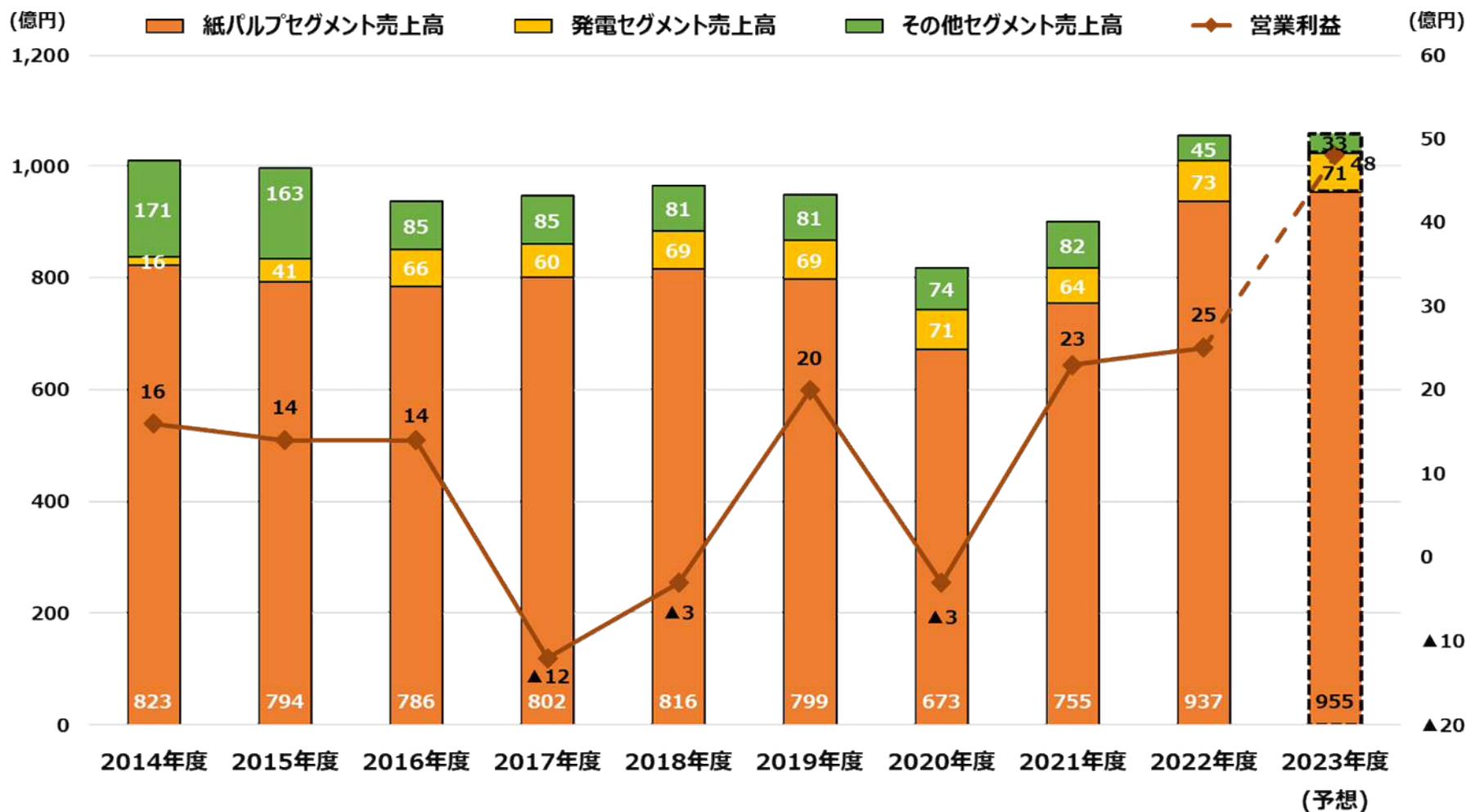
MAPKA®生産工程



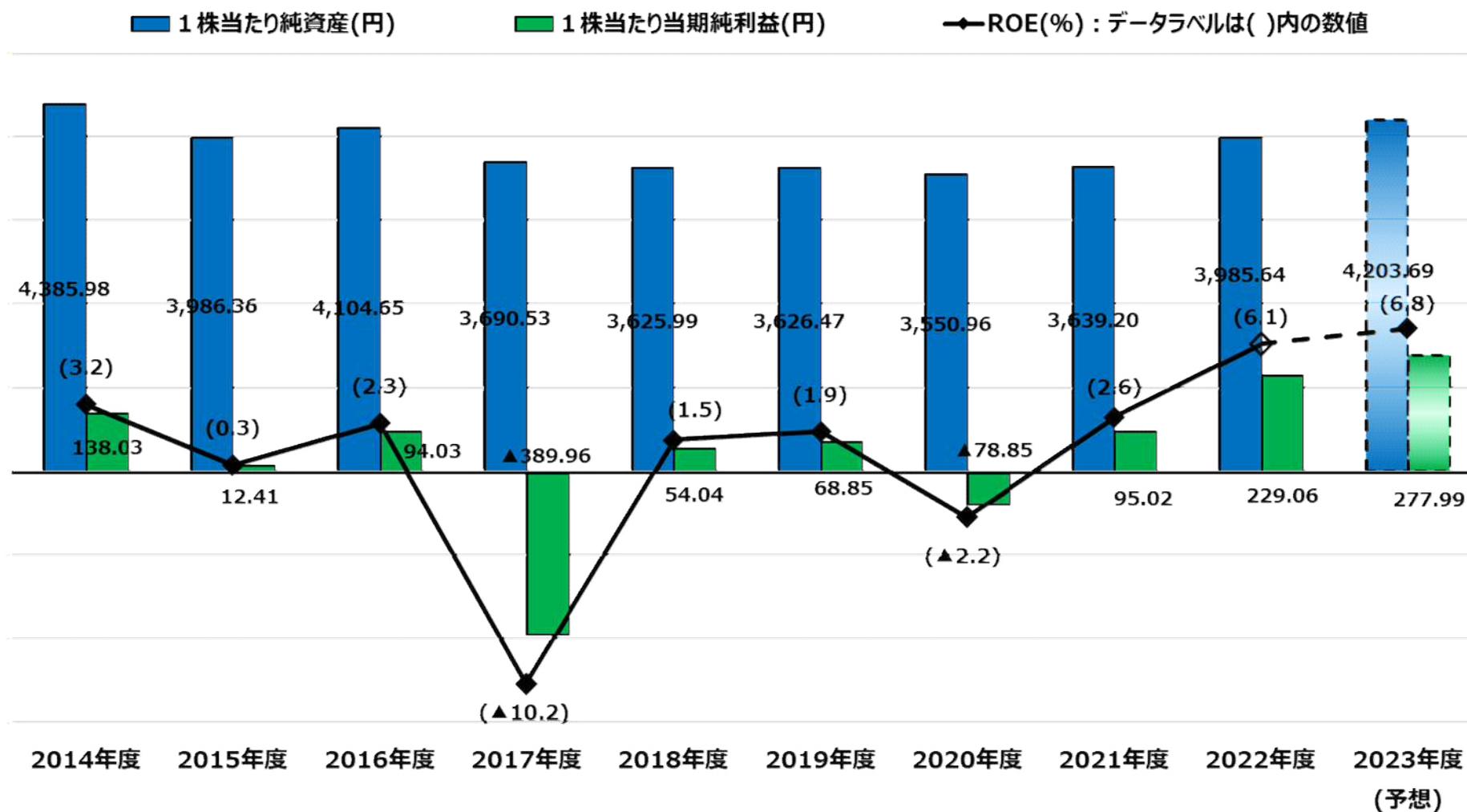
参考：MAPKA®加工品例



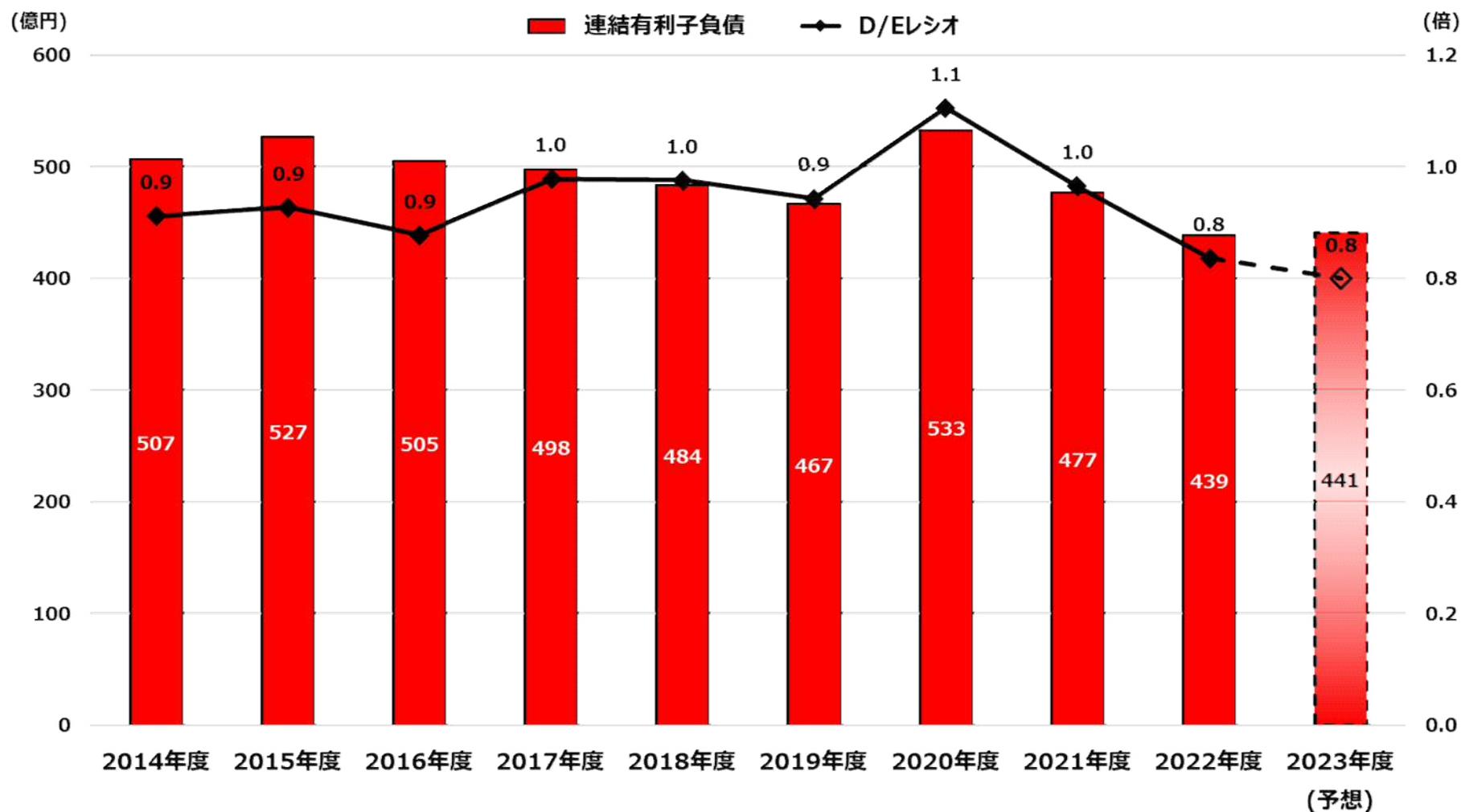
【参考資料】連結業績推移



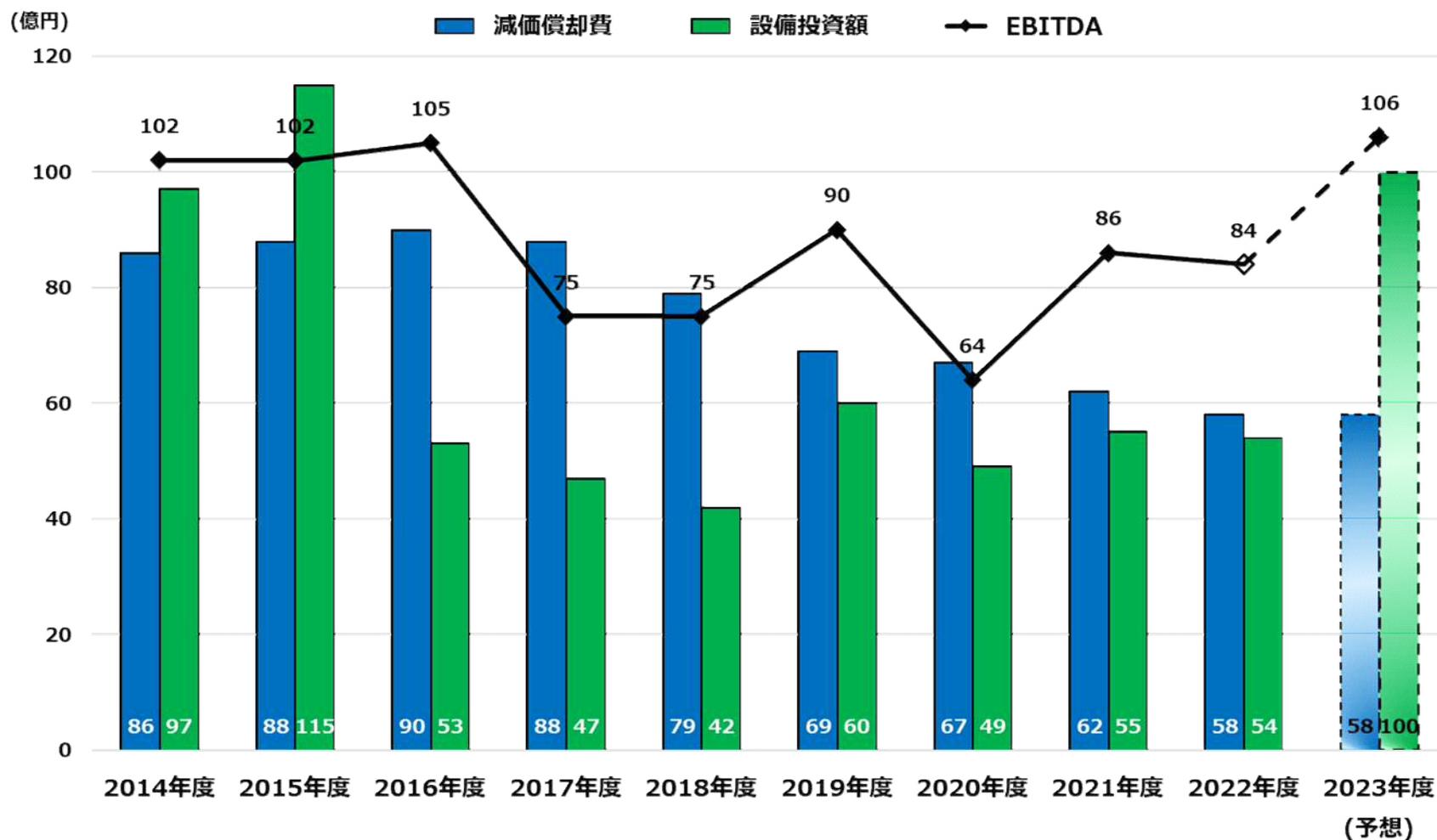
【参考資料】連結自己資本利益率(R O E)推移



【参考資料】連結有利子負債残高推移



【参考資料】連結設備投資・減価償却費推移



【参考資料】原燃料価格推移(対2014年度比較)

